

ミックスジュース

学級通信
鎌沢中
3年生
2018年6月5日
No. 10
大型紙芝居をやります



教頭先生特別授業「もう一つの七夕」



～多くの子どもたちの願いが



短冊とともに焼きつくされた日～

まだ6月上旬ですが、七夕にむけて、一人ひとりの願いを込めた短冊をつくってもらいました。クラスメイトの書いた短冊を紹介すると、笑顔がこぼれました。みんなの願いが叶うといいですね。



過去に、そのような思いが炎に焼きつくされた日がありました。73年前の7月6日の深夜。甲府に空襲があり、子どもたちの願いと命が戦争で消えてしまいました。甲府の町のほとんどが焼きつくされ、千人以上が亡くなりました。富士川町からも甲府の空が真っ赤に染まるようすが確認できたそうです。

一夜明けて7月7日七夕。地域のお祭りがあり、普段はなかなか食べられない赤飯を炊いていたそうです。すると、甲府から空襲にあった人たちがおし寄せてきます。水を飲ませてあげたり、赤飯を少しわけてあげたりしたそうです。甲府では、東京から戦火を逃れて学童疎開してきた子ども2人が亡くなっています。それが「もう一つの七夕」のストーリーのもとになっています。

今、世界が平和とは言いきれません。世界中のいろいろなところで戦争や紛争が起きています。そこには必ず「もう一つの七夕」のような悲劇があります。みんなのような、将来のある子どもたちの未来を奪っては絶対にいけません。心から「世界中の全ての人が平和であってほしい」と願います。

Imagine all the people living life in peace

by John Lennon



今日の授業で学んだこと、考えたこと、感想



- 「すべての人が平和に暮らせる世界を想像しましょう。」この言葉が印象的だった。今の生活があたり前なのだと、修学旅行に行く前は思っていた。しかし、今はこの言葉を重く受け止められるほど、平和を見つめる目が変わった。自分たちの本当の願いも書かず、戦争への意気込みをつづる短冊を子どもが書くななんて悲劇だと思った。今、私たちは自分の望みを素直にかけて幸せです。
- 今もいろいろな場所で戦争があると思うと悲しくなります。「自分の国がテロに巻き込まれたからといって、報復することが本当に良いことなのか？」という言葉が確かにと思いました。ほとんどの人が戦争なんかしたくないに決まっています。だからこそ、戦争が世界から消えてほしい。私も「世界中の人が平和であってほしい」と思います。
- 甲府空襲に関わった場所がこんなに近くにあることに驚いた。200人の疎開者を受け入れるのはとても難しいけど、受け入れた穂積村の人たちはすごい。そして、このことが新聞に書いてあり、保存されている。歴史はつながっているんだと思った。いつ戦争が起こってもおかしくない状況になっている今、自分たちは平和に関する意識をもっと高めていかなければならないと感じた。
- 戦争は、自分の国を守るために、相手の国を傷つけて、お互いに傷つけて、子どもたちの未来を奪う。とても悲しいです。
- 私たちの身近にこんなことがあるなんて初めて知りました。また、当時の新聞をみたら、戦争一色の内容になっていて本当に驚きました。

6/1(金) 合唱「消えた八月」のイメージを絵本で共有する授業

(「絵になった」・「石像になった」・「壁にとけた」・「大地に消えた」)



There is no one who can tell what it was like at the center of blast.

(爆心地の話を伝えてくれる人は、誰もいません) 絵本 ピカドン(丸木位里・丸木俊 作)より